

## インフラ・ファイナンスの研究

主査 加藤一誠(日本大学教授)

わが国では1980年代以降、インフラ整備において民間活力の導入が謳われ、今日では多くのプロジェクトにPFIが導入されている。他方、様々なファンドがインフラを購入し、運営する事例が多数みられるようになったが、ファンドはその資金を市場から調達する。アジアでは各国政府が関与するかたちでインフラ資金の調達システムが構築されている。また、欧米ではインフラ運営者がレベニューボンドを発行して資金を調達していることは広く知られている。

本年は、テーマに関する共通理解を構築するため、2回の研究会は外部有識者の講演に充てた。第1回目の講師である原田氏には、国際開発機関や民間金融機関の信用保証に焦点をあて、その意義、現状および課題などを事例にもとづいて説明して頂いた。第2回目の講師である中島氏には、マッコーリーキャピタル証券会社の実施したインフラ投資の実例の紹介やその背後にある考え方をご紹介いただいた。以上の知見を生かし、研究協力が以下のようなテーマで報告した。

「アジア地域におけるインフラ整備の現状と資金調達」西藤真一氏（島根県立大学総合政策学部専任講師）、「地方債の交付税措置が道路事業に与える影響に関する分析」後藤孝夫氏（近畿大学経営学部准教授）、「交通のインフラ・ファイナンス（基本的概念と米国の事例）」小島克巳氏（神戸夙川学院大学観光文化学部准教授）、「アメリカ国内市場における低コスト航空会社の参入と価格形成」齋藤雅樹氏（(財)日本航空機開発協会）